脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.76

**精神保健ウガンダ**

**MENTAL HEALTH UGANDA (MHU) SUBMISSIONS TO THE DRAFT GUIDELINES ON DE-INSTITUTIONALISATION**

精神保健ウガンダ（MHU: Mental Health Uganda）は、先住民族の非政府組織で、会員制の障害者団体です。1997年に設立され、2001年に正式に国のNGOとして登録されました。私たちが設立した目的は、精神障害者/精神科サービスの利用者、そしてその家族が圧倒的に疎外され、孤立し、権利が侵害されていることに対応するものでした。私たちの使命は、「ウガンダの精神疾患のある人やその生存者のために、必要なサービスや機会の提供に影響を与える統一された声を作り出すこと」です。この使命に寄与するため、私たちは精神疾患の生活体験を持つ人々の権利擁護活動を数多く行ってきました。しかし、その格差は依然として甚だしい。また、私たちが暮らす地域社会では、依然としてスティグマが蔓延し、根付いています。

このような背景から、MHUはヴァリディティ財団(Validity Foundation)の支援を受けて、ウガンダのカンパラ、リラ、ソロティ（訳注　カンパラはウガンダの首都。リラ、ソロティはそれぞれ中北部，東部の市。）でガイドラインの認知度を高めるための全国協議会を開催しました。その結果、MHUの提案は以下のようになりました。

1. ガイドライン案は、地域社会での生活を確保することが最も重要であることを強調しています。しかし、脱施設化に関する地域住民の意識を高めるための手順については、ガイドライン案では示されていません。2014年のMHUとMDAC（Mental Disability Advocacy Centre　精神障害者擁護センター）の報告[[1]](#footnote-1),によると、精神障害者は有害な暴力行為にさらされていることが示されています。例えば、ある面接者はレイプされたことを報告しましたが、加害者が家族であったため、その苦情は家族によってフォローされることはありませんでした[[2]](#footnote-2)。さらに、精神障害者たちは、家族が実家で彼らを孤立させ、時には個室に閉じ込めることもあったと話しています。精神保健上の問題を抱える女性は、孤立させられた経験のひとつを報告しました。「彼（父親）は私を平手打ちして、2日間部屋の中に閉じ込めました。近所の人が来て、ドアを開けてくれました。彼はどこにも見当たりませんでしたが、2週間後に戻ってきました[[3]](#footnote-3) 。」

私たちは、ガイドラインが地域社会の意識に重点を置くべきであると考えます。というのも、全国協議で私たちと話をしたメンバーの大半が、地域住民や家族が精神保健について教育される必要があると指摘していたからです。また、もし地域住民が精神保健について教育されず、よく知らされていないなら、ガイドラインはウガンダでは効果的でないだろうということも指摘されました。

1. ウガンダにおける精神障害の伝統的治療

ガイドライン案は、ウガンダの精神障害者を施設に収容する際に伝統的治療を施す人が果たす役割と影響を考慮していません。例えば、MHU & MDACの報告書は、精神障害者が伝統的治療を受ける際に、厳しい拘束、隔離、身体的暴力、食事や水の供給拒否をなど厳しい形態の身体的虐待にさらされることを実証しています[[4]](#footnote-4)。

したがって、ガイドラインは、精神障害者が施設に確実に収容されるようにするために伝統的治療を施す人が果たす影響に焦点を当てるべきであるというのが我々の主張です。現在構成されているガイドライン案にはそのセクションがなく、起草者がウガンダの精神障害者を代表したこの意見を考慮しないのは誤りでしょう。

3. 　精神障害者の労働と雇用

ウガンダでは、精神障害者は一般的に貧しく、仕事もありません。彼らの家族は、彼らが地域社会から疎外されていることがほとんどであるため、さらに貧しいです。ガイドライン案では、脱施設化を効果的に進めるために、政府が精神障害者の所得支援を保証することの重要性が強調されています。しかし、ウガンダでは、脱施設化を効果的に進めるためには、精神障害者とその家族に雇用の機会が保証されなければなりません。ウガンダでは、精神障害者を抱えることに家族が負担を感じているため、施設に収容されることがほとんどです。そのため、精神障害者は施設に送られたり、家に閉じこめられたりするのです。脱施設化を効果的に進めるためには、ガイドラインがCRPD締約国に対して、精神障害者とその家族の雇用機会を保証することを勧告する必要があると考えます。

（翻訳：佐藤久夫、岡本 明）

1. ‘*They don’t consider me as a person’: Mental Health and Human Rights in Uganda Communities*, 2014 available at <http://www.mdac.org/sites/mdac.info/files/mental_health_human_rights_in_ugandan_communities.pdf> [↑](#footnote-ref-1)
2. MHU & MDAC Report at page 16. [↑](#footnote-ref-2)
3. MHU & MDAC Report at page 16. [↑](#footnote-ref-3)
4. MHU & MDAC Report at page 29. [↑](#footnote-ref-4)